

ロシアによるウクライナ侵略の状況

(2024年3月19日時点)

➤ **ウクライナ軍の東部(ドネツク州)及び南部(ザポリヅジャ州)における攻勢が停滞する一方、露軍は、東部(ドネツク州及びハルキウ州)で攻勢を強めるとともに、ウクライナ全土に対するミサイル・無人機攻撃を強化している模様**

戦闘による人的被害・物的損耗の状況

露軍: 死者約12万人、負傷者約18万人 (NYT23年8月18日)

: 死者約18万人 (ゼレンスキー大統領24年2月25日)

: 死傷者35.5万人以上 (英国防省24年3月3日)

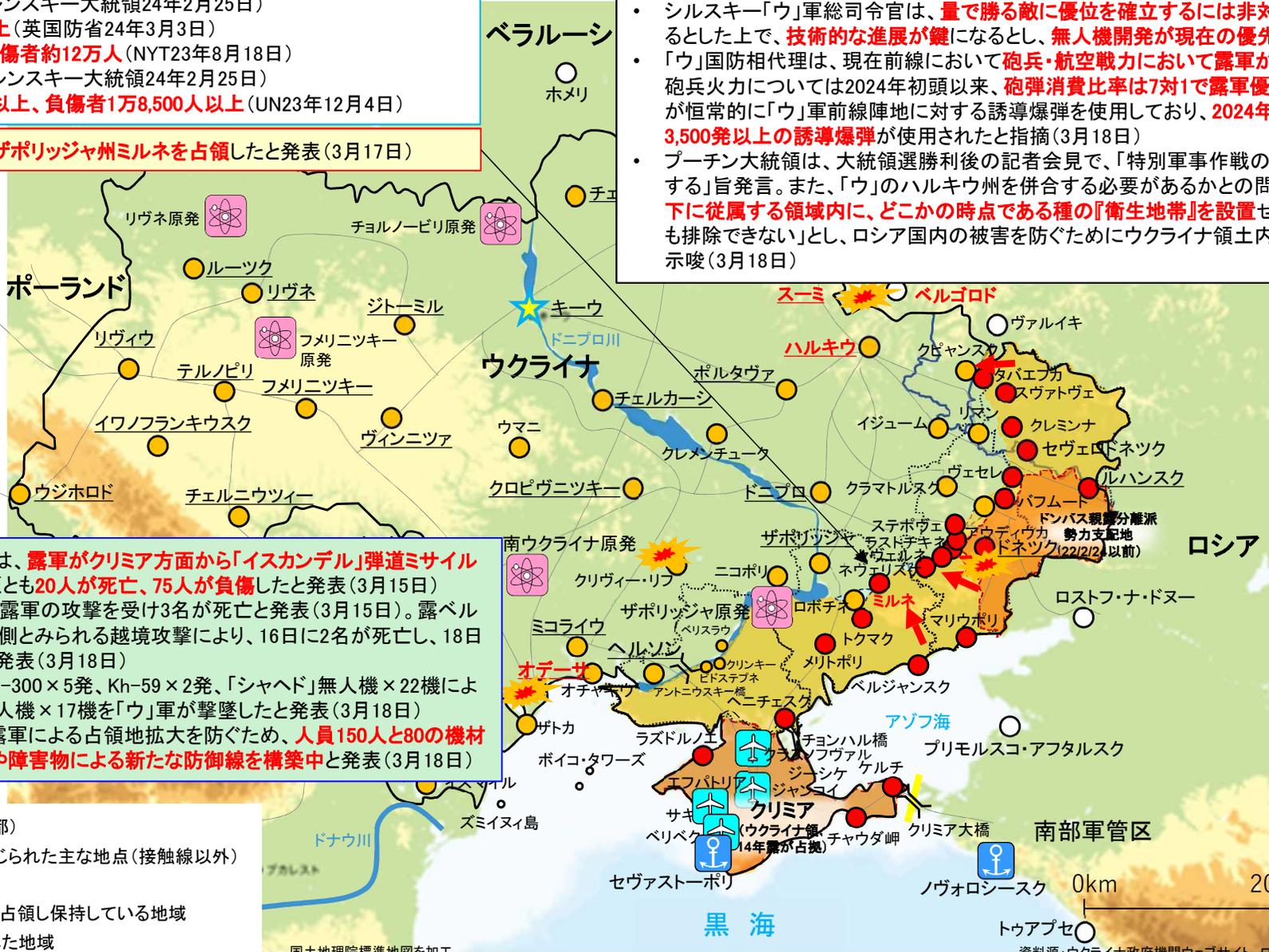
「ウ」軍: 死者約7万人、負傷者約12万人 (NYT23年8月18日)

: 死者3.1万人 (ゼレンスキー大統領24年2月25日)

「ウ」市民: 死者10,000人以上、負傷者1万8,500人以上 (UN23年12月4日)

・ 露国防省は、**露軍がザポリヅジャ州ミルネを占領したと発表**(3月17日)

- ・ 欧州連合(EU)の欧州理事会は、**今年分の「ウ」軍事支援基金として、50億ユーロを積み増すこと**で合意したと発表(3月18日)
- ・ シルスキー「ウ」軍総司令官は、**量で勝る敵に優位を確立するには非対称な解決策が必要**であるとした上で、**技術的な進展が鍵**になるとし、**無人機開発が現在の優先事項**だと指摘(3月18日)
- ・ 「ウ」国防相代理は、現在前線において**砲兵・航空戦力において露軍が優位**にあるとした上で、砲兵火力については2024年初頭以来、**砲弾消費比率は7対1で露軍優勢**、航空戦力では、露軍が恒常的に「ウ」軍前線陣地に対する誘導爆弾を使用しており、**2024年以降、77日間のうちに3,500発以上の誘導爆弾が使用された**と指摘(3月18日)
- ・ プーチン大統領は、大統領選勝利後の記者会見で、「特別軍事作戦の課題を解決し、軍を強化する」旨発言。また、「ウ」のハルキウ州を併合する必要があるかとの問いに対し、「**キーウ政権下に従属する領域内に、どこかの時点である種の「衛生地帯」を設置せざるをえなくなる可能性も排除できない**」とし、ロシア国内の被害を防ぐためにウクライナ領土内に緩衝地帯を作る考えを示唆(3月18日)



- ・ 「ウ」オデーサ州知事は、**露軍がクリミア方面から「イスカンドール」弾道ミサイル×2発を使用し、少なくとも20人が死亡、75人が負傷したと発表**(3月15日)
- ・ 「ウ」スーミ州当局は、露軍の攻撃を受け3名が死亡と発表(3月15日)。露ベルゴロド州知事は、「ウ」側とみられる越境攻撃により、16日に2名が死亡し、18日には4名が死亡したと発表(3月18日)
- ・ 「ウ」空軍は、露軍がS-300×5発、Kh-59×2発、「シャヘド」無人機×22機による攻撃を行い、うち無人機×17機を「ウ」軍が撃墜したと発表(3月18日)
- ・ オデーサ州知事は、露軍による占領地拡大を防ぐため、**人員150人と80の機材を投入して対戦車壕や障害物による新たな防御線を構築中**と発表(3月18日)